



社大同窓会

あなたのキャリアプラン実現のための
福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会

社大同窓会号外 重要

社会福祉学会

日本社会事業大学同窓会

社大生のみならず、これからどのような福祉分野の職場で仕事をしていきたいのか。キャリアプラン作成の手掛かりにしてください。「就活」や「相談援助実習先」の選択に迷ったときや、この交流会は、日本社会事業大学同窓会×社会福祉学会のコラボ企画です。

- ◆ 福祉現場の経験豊富な先輩達が、学生のみなさんをサポート！
子ども、障がい者、高齢者、社会などの現場は？様々な分野の業務内容、一日の仕事の流れ、あなたのキャリアプランを描こう。
- ◆ 「OB・OGがなぜこの現場で働いているか？」話を聞く！
先輩達と話すことで初めてわかることがあります。志望した理由は？仕事をして良かったことは？仕事のやりがい？などいろいろなことを聞いてみよう。
- ◆ 「現場訪問」「OB・OG訪問」する。
実際の現場を見学して、OB・OGと話をしてみよう。
JCSWネットワーク職場体験応援制度で、同窓会が交通費を助成します。
- ◆ 「就活・全国フェア-in社大」も同時開催します。
みなさんの就職支援として、合同就職相談会・同窓会支部コーナーを設置します。
参加団体情報の提供・資料配付、採用計画の説明、故郷での就職を考えている方の同窓会支部コーナーなど

2019.6.22(土) 12:00-16:30

◆日本社会事業大学 教学A棟1F大講義室
◆全学年参加可、予約不要、入退場自由 ◆特典 図書カードをプレゼント

vol.
84
同窓会×大学
パートナーシップ推進



Japan College of Social Work
Alumni Association



実現のための ・OGとの交流会



同窓会長メッセージ

去る6月22日、大学社会福祉学会との共催による同窓会イベントを実施しました。今年度は事前周知の工夫に努め「OB・OGとの交流会」「同窓生と一緒に考える！」の同窓会企画への参加者が大幅に増え、活気のある催しになりました。ご協力いただいた学会実行委員・参加団体・在校生ボランティアの皆様には心よりお礼を申し上げます。

同窓会としては、今後とも大学と車の両輪の関係、相互理解を深めながら母校発展のために尽力してまいりますので皆様のご理解とご支援を重ねてお願いします。

同窓会会長 岩崎俊雄



就活・全国フェア in 社大 参加団体

(福)あすはの会
(福) あすはの会 法人本部事務局

東京都手をつなぐ育成会
 清瀬育成園ひだまりの里きよせ

社会福祉法人
白十字会
特別養護老人ホーム 白十字ホーム

大田幸陽会 法人本部

社会福祉法人 南奈聖外院

福音寮
ふくいんりょう
 児童養護施設福音寮

社会福祉法人
三徳会

DOTLINE GROUP
 株式会社ドットライン (ドットライングループ)

まりも会・清瀬療護園

白根学園 法人本部

(福) 日本キリスト教奉仕団
 アガベセンター アガベ書庫

社会福祉法人 ル・プリ
 くるみ会事業本部

社会福祉法人
滝川学園

日本赤十字社
 日本赤十字社総合福祉センター

その他社大卒業生法人・
 施設グループ

東京アフターケア協会
東京都清瀬喜望園

日本フレンズ奉仕団
 法人本部事務局

参加支部

北海道支部 村上勝彦(学部9期)

社会福祉法人 **慧誠会**
Keiseikai

はるにれの里
 社会福祉法人 はるにれの里

これから、
 かがやき満ちる日を。

社会福祉法人 **栄和会**

道内社会福祉法人等
 (社大卒業生施設及び友好施設等)

- 岩手県支部 右京昌久(学部24期)
- 福島県支部 菊池恵子(学部21期)
- 茨城県支部 伊藤博胤(本科10期)
- 栃木県支部 岩崎俊雄(学部10期)
- 千葉県支部 加藤祐二(学部19期)
- 東京都支部 豊岡 敬(学部14期)
- 長野県支部 野村健一郎(学部7期)

あなたのキャリアプラン 福祉現場で活躍するOB



同窓生と一緒に考える！
「ソーシャルワーカーへの途」



8月



夏の風物詩と言えば。



オープンキャンパス／体験入部

3月15日 福祉の最前線へ・学位授与式(卒業式)

2年前の母校創立70周年記念で
植栽した河津桜は、
今春ピンク色の花をつけました



6月



救命講習、応急手当を学ぶ



献血のお知らせ

日本社会事業大学のみなさまへ

年に1度の実施です!!
当日は、60名以上の
ご協力が必要です。

■日時 6月7日(金) 12:00~16:30
【受付時間】
■会場 厚生棟2階 集会室

Cafe たきゅう

ボランティアサークル



みんなが集えるカフェ。

コミュニティづくりの拠点



カフェの飾りつけを春仕様に貼り替えました。団地のカフェボランティアの皆さんと一緒に写っています。



笑顔での接客を心がけています。



「今日は寒いですね」と話しながら…

たきゅう 活動メモ

通年
毎週土曜日 11時～16時 カフェでの活動

- 10:00 ▶朝のミーティング。開店準備
- 12:00 ▶カフェオープン。接客。お客様への声かけ。
- 16:00 ▶片付け。閉店
- 7月 たきやまこどもお楽しみ会

●これからの活動

たくさんの方のお話しを聞くことで人間関係も広がります。学生との交流を楽しみにいらしている方も多く、私たちはその思いが活動の糧となっています。人の温かさを感じられるカフェでの活動を、多くの学生に発信できればと思っています。
(代表 柴山 みなみ)

たきゅうって??

滝山団地(東久留米市)の自治会の方が中心となり運営している「ダイニングカフェたきやま」にて、毎週土曜日に、学生ボランティアとしてカフェのお手伝いをしています。「ダイニングカフェたきやま」は、住民の方の見守りとコミュニティづくりの拠点として団地に欠かせない場所であり、安心できる居場所です。

私たちは学生ボランティアとして、お客様と関わりお話しすることで、見守りや安心につながればと思い活動しています。高齢の方と関わる機会も多く、私たちにとっては学びの場にもなっています。



月



7月のこどもお楽しみ会でのすいか割り。こどもたちの元気な声が響きました。



レクリエーションとして新聞じゃんけんをしました。

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

第50回 社大祭

令和元年10月26日(土)27日(日)

With You-With Us
～新たな一歩、あなたと共に～



社大祭実行委員

今年、社大の大学祭は50回の節目であり、原宿から清瀬に移転した後も地域の方々に愛されてきた証拠であります。

令和という新しい時代に半世紀の歴史を持った第50回の記念会を運営できることを実行委員一同大変光栄に思っております。その中で、我々は何を目指しこの大学祭を運営するのかを考え、2つの目標を掲げました。

さらに多くの人に足を運んでいただきこの社大を知っていただくこと。そして、大学祭を通じて多くの人に福祉を身近なものに考えていただくきっかけとしてもらうこと。この2つであります。学生のためだけの大学祭ではなく、より来場者に目を向けて、我々学生だからこそ、伝えられるものは何か。福祉を学び始めた者だからこそ、さらに噛み砕いて多くの人に向けて発信する機会を我々が提供できるのではないかとこの学校像を表すスローガンでもあります。そして、地域の方にとってわかりやすく、学生には自分の興味のある分野だけでなく、初めて来る人には社大が何をしているかを。多くの人が我々と一緒に大学祭を楽しめる。あなたと共にあるという我々の、さらに地域に根差したいという思いを託したこのスローガンであります。(宇賀那康政)



企画紹介



ハイライトはHAPPY♡WEDDING

大学で結婚式します。実行委員がオリジナルでお届けする企画です。

ロンドンパラリンピックメダリスト小山恭輔さん講演会、パラスポーツ体験、サークル・卒業生ライブコンサートなど

◀◀校内でおいしい焼きそばなどを販売しました。学祭の存在をアピールできました。

今年こそ記念すべき50周年です!ぜひ社大祭にお越しください!

ボランティアセンター学生スタッフ「1step」企画



「教えて!子どもボランティア」

～子ども食堂・学習支援の実践から～

身近な子ども向けボランティアについて、事前に学んでからボランティア体験するプログラムを企画実施しました。その締めくくりとして、社大福祉フォーラム(学内学会)の自主企画としてワークショップを開催しました。

- ①事前学習会:地域の運営者の方々のお話や先輩の体験談を聞く、個別相談、ボランティア先マッチングなど
- ②ボランティア体験:子ども食堂や学習支援会場で体験
- ③振り返りワークショップ:子どもに寄り添う支援とは? 大学生にできることとは何か?等について意見交換



子どもに寄り添う支援について、4つのグループに分かれてディスカッション



学内学会ご参加の皆さんと



体験先個別相談

母校の支援と同窓生のネットワークを生かすため、あなたの同窓会への参加をお待ちしています。

学部1977年度入学生 同窓会in原宿

5月18日(土)原宿で久々に再会した。現役で入学した同窓生が、還暦を迎えた時に同窓会をしようと2011年開催の同窓会で決めた。それ以来8年振りに原宿のクラブ水交に43名の還暦を超えた同窓生が集まり、横山和彦先生、大橋謙策先生、佐藤久夫先生をお迎えし、楽しく、なつかしい時間を過ごさせていただいた。出席者は、北は北海道、南は九州福岡県から来られ、遠く海外のスペインから駆けつけていただいた方もいた。

社大の同窓生は、社大での学びや体験が今の仕事や人生に活かされている感謝の気持ちを一人ひとりが語ってくれることがすばらしい、との佐藤先生のお言葉が心に響いた。最後に全員で校歌をフルコーラスで斉唱、記念の集合写真を撮りお開きになった。 西野 伸一郎



クラブ水交(東郷記念館1F)

研究科57期 初のクラス会

1月12日(土)出席者は元教員と家族を含む25名。2003年の卒業後一度卒業アルバム作成完了時に集まったことがありましたが、その時以来、全体へ呼びかけての同窓会としては初となりました。各々の卒業後の進路、活躍振りを知ることのできた大変貴重な機会となりました。今後定期開催予定です。 鈴木 美穂



パセリリゾート(新宿)

茨城県支部 同窓生交流会 支部長に高松孝幸(学部15期)さん

8月3日(土)土浦市で開催、参加者は19名でした。総会では、同窓会菱沼事務局長からの母校の現状と課題についての報告、役員改選では伊藤博胤支部長が勇退、高松孝幸氏が支部長に選出されました。伊藤支部長には、本県支部はもとより同窓会全体を永らく支えていただきました。

菱沼先生の講演の後は交流会です。米寿を迎えた上田元同窓会会長も臨席され、終始和やかに交流を深めました。今回は、参加者19名のうち10名が清瀬世代となり、原宿世代から清瀬世代への移行が進み始めたようです。 森 雅巳



懇親会
(かね喜本店)

栃木県支部 総会・講演会

6月1日(土)宇都宮市内で支部総会・交流会を開催。総会では財政がひっ迫していることのみお伝えしてすぐにミニ講演会。今年の講師は、専門職大学院の鶴岡浩樹教授。鶴岡先生は、県内で先駆的な在宅医療を行うつるかめ診療所の所長でもあり、今回は専門職大学院についてわかりやすく説明してくれました。交流会は、久しぶりに20代会員の参加もあり、20名を超えるメンバーで盛り上がりました。というわけで財政がひっ迫しております。会員の皆さん、会費の納入・カンパをよろしく願います! 菊地 浩史



◀ホテルニューイタヤ(宇都宮)

大学の花壇作りに貢献

東久留米市シルバー人材センターは、大学管理棟の清掃や大学への訪問者に湯茶をお出する業務のほかに、大学の中庭に花壇を作り四季折々の花を育てる作業をボランティアで取り組まれています。これまで永年にわたり尽力されてきた清水晴美さんが引退されました。



静岡原宿会(社大同窓会静岡支部)の再開

今期までの会長田島誠一(学部13期)、事務局武居敏(学部12期)の体制のまま、次の体制の確保が難しい状況でしたが、もっと若い世代にバトンタッチすべく、今回の再建総会に至りました。7月6日(土)の総会で決定した新たな体制は、役員はすべて学部34期(1994年卒)で、会長中村敬、副会長吉岡誠仁、柚木克方、そのほかにも同期生が3名、静岡県内に計6名いる稀な学年で担当してもらうことになりました。

同日、日本社会事業大学学長の神野直彦先生にご講演をお願いいたし、同窓生約20名と静岡県医療社会事業協会の会員数名様が参加。先生から「今後の社会福祉の展望」についての熱弁をお聞かせいただき、参加した皆さんには満足して頂いたものと思います。

いまや、今後の大学の発展のためにも、また同窓生の所属する組織の職員採用、職員の育成の観点からも、同窓会と大学の協力が不可欠だと考えられます。そのためにも、改めて各地区の同窓会活動を活性化したいものです。 武居 敏

◆2019年度事業計画

同窓会は、社会福祉の実践者として「忘我の愛と智の灯」の校歌の下に結集し、卒業生同士での活動だけでなく、在校生とも一緒になって、今後も社大教育と実践をつないでいく。

実習現場の提供や就職の支援、そのための卒業生のネットワークづくりをさらに推し進めるため(1)支部活動の活性化(2)在校生との交流・同窓生間の交流の促進(3)大学とのパートナーシップの推進に引き続き取り組んでいく。

◆母校・在学生への支援

(1)福祉現場で活躍するOB・OGとの交流会実施。「就活・全国フェア-in社大」を同時開催。故郷で就職を考えている方の同窓会支部コーナーを設置。同窓生が法人役員や施設長となっている団体の合同就職説明会を併設。(2)JCSWネットワーク職場体験応援制度の実施。在校生の職場訪問や支部セミナーへの交通費等経費の一部助成(3)同窓会「五味基金」による修学困難学生に対する1名50万円の奨学金支給。

◆同窓会事務の改善

同窓会名簿新規作成による会員データの再構築。また、会員のプライバシー保護と情報セキュリティ強化。

2018年度 日本社会事業大学同窓会収支計算書

2019年度 日本社会事業大学同窓会予算

収入の部 (単位：円)		
科目	2018年度決算額	2019年度予算額
会費収入	4,654,053	4,000,000
入会金収入	901,500	75,000
雑収入	4,011	100,000
前年度繰越金	1,028,890	2,436,312
合計	6,588,454	6,611,312

【収支差引額】

6,588,454 - 4,152,142 = 2,436,312
 (収入決算額) (支出決算額) (翌年度繰越額)

- ◆ 2018年度一般運営基金現在高 19,948,166
- ◆ 2018年度五味基金現在高 15,495,868

支出の部

科目	2018年度決算額	2019年度予算額
会議費	127,940	200,000
委員会活動費	34,181	50,000
人件費	380,500	600,000
支部強化費	538,608	600,000
機関誌等発行費	2,380,586	2,500,000
支部出張費	127,880	250,000
通信運搬費	80,705	100,000
学内学会助成費	100,000	100,000
ホームページ関係諸費	64,800	100,000
慶弔費	0	50,000
国際交流推進費	19,000	50,000
卒業記念品費	203,820	250,000
名簿作成費同窓会補填費	0	400,000
事務局活動費	94,122	200,000
予備費	0	1,161,312
合計	4,152,142	6,611,312

社大校歌CD・同窓会旗プレゼント

同期会やサークル会時にご活用ください。先着10名様にプレゼントします。住所・氏名を次のあて先までご連絡ください。

<郵便の方>

〒204-8555 清瀬市竹丘3-1-30
日本社会事業大学同窓会

<FAXの方>

042-496-3051

<E-mailの方>

kouyu@jcsw.ac.jp



PHOTO NEWS



卒業生全員に「卒業証書ホルダー」を寄贈



3月15日 同窓会主催 留学生の卒業を祝う会



3月23日 同窓会主催 通信教育科修了生の集い



3月23日 法人と同窓会の意見交換会



6月22日 幹事会

同窓会と大学とのパートナーシップ推進について協議

同窓会費納入にご協力を

同窓会は、卒業生同士の活動だけでなく在校生とも一緒になって、社大教育と実践をつないでいきます。会報「社大同窓会」を年に2回約8,000人の同窓生・約1,000人の在校生にお届けしています。会報に同封されている「同窓会年会費」納入用紙をお使いいただき一人でも多くの方のご協力をお願いします。同窓会役員一同

教職員・同窓生との絆に感謝

右京 昌久
学部24期
(1984年卒)

夏の風物詩には、高校野球・夏祭り。が思い浮かびます。私が日本社会事業大学の学生になった四十年ほど前、私にとつての「夏」は、学生サークル児童劇団ピッポの地方公演でした。

生活の中心が劇団ピッポ

劇団ピッポの公演は、夏と冬の二回行われ、冬は都内の児童館などを対象に行い、夏は地方公演を行っていました。一年目の夏は沖縄県南部、二年目は長野県松代町、三年目は岩手県沢内村（現在は合併によって西和賀町）、四年目は佐賀県大川市



でした。夏の地方公演は、舞台道具や照明・音響機器、衣装を現地に持込み、小学校などの体育館で子どもたちに劇を披露する活動でした。公演中は公民館などで自炊し、地元のホテルや卒業生が応援に駆けつけてくれました。下手糞な素人芝居でしたが、子どもたちの嬉しそうな表情に接したときはやり甲斐を感じたものです。

劇団ピッポのボックス（活動室）は、原宿校舎の裏に建つ木造の学生会館の二階にありました。当時、学生会館を半ば生活の場にして、学生も数多く、私もその一人でした。大道具づくりや演出の検討のため、夜遅くまで学生会館に居残っていました。どこからとなくコップ酒が現れ、裂きイカを肴に議論をする毎日を過ごしていました。他のサークルのメンバーや卒

業生、教職員も親しい輪の中にいつもいて、校舎での学びはもとより、劇団ピッポを取巻く方々から得られた学びは大きなものがありました。

日本社会事業大学を卒業後、私は出身地の岩手県玉山村（現在は合併により盛岡市）に新設された特別養護老人ホーム秀峰苑に生活指導員として入職しました。精神科医が開設したこの施設は、当時「呆け老人」と蔑まれた認知症の高齢者を受け入れる方針の施設でした。ここで三年余り認知症介護を経験したことが、その後転職した岩手県社会福祉協議会の仕事の基礎になりました。

多様な業務を経験した県社協

県社会福祉協議会に仕事を移してからは、ボランティア振興業務、市町村社会福祉協議会支援業務、生活福祉資金貸付業務、社会福祉法人支援業務、障がい者施設製品販売促進業務、福祉サービス第三者評価業務、災害福祉支援業務などに取組むうち、定年を迎える年齢になりました。どの仕事も手ごたえの大きな業務でしたが、ここ八年は災害時の福祉支援業務が拡大しました。

二〇一一年三月十一日に東日本大震災が起こったからです。岩手県では二万六千棟余が全半壊死者・行方不明者（関連死を含む）は六千人を上回りました。災害時福祉支援の役割は年々高まっています。それもそのは

ずで、人命を奪い、建物や交通網を破壊する豪雨や地震は毎年発生しているからです。災害によって家を失った人々が日常生活を取り戻すのは容易なことではありません。家族や親しい友人の死に加え、仕事の喪失、避難所生活、貧弱な応急仮設住宅、地域の人々が離れ離れになるコミュニティの崩壊など、災害の影響は長期に渡って地域の暮らしを脅かすのです。

東日本大震災の支援業務

東日本大震災で、県社会福祉協議会は、被災した市町村社会福祉協議会と災害ボランティアセンターへの支援、生活福祉資金の緊急特例貸付、避難所に身を寄せた脆弱な避難者への支援、被災した社会福祉施設への支援に対応しました。応急仮設住宅が建設される段階では被災者の見守りや生活支援と身近な相談に対応する生活支援相談員二百人を被災地に配置し、相談員をバックアップする研修や会議の開催も重要な業務となりました。

東日本大震災で拡大したこれらの活動は、その後の熊本地震や西日本豪雨などの災害を経て、災害時福祉支援活動として全国的、総合的な仕組みの整備につながっていきましました。それは、(一)災害ボランティアセンターの運営、(二)災害派遣福祉チームの組成、(三)福祉施設の相互支援、(四)生活支援相談員の配置などの取組を一貫して長期的に推進する仕組み作りです。財政の裏付けや人材養成、多様なNPOとの連携など、まだ



課題を残していますが、災害に起因する長期の生活困難を支える役割が大きく浮上してきたのです。

このような取組は、県・市町村行政、市町村社会福祉協議会、社会福祉法人・福祉施設、福祉専門職団体、当事者団体、NPO・ボランティア組織、生活関連企業との信頼・連携の関係が必要不可欠です。県社会福祉協議会には災害時にも平時にもこのような連携協働の基盤としての役割が一層求められるようになりました。

長く続く社大の絆に感謝

日本社会事業大学の恩師、先輩、後輩にはこれらの仕事の様々な場面で助けていただきました。岩手県立大学に赴任した高沢武司先生（故人）、ルーテル学院大学学長で当時社会事業研究所の役員だった市川一宏先生、大橋謙策先生、京極高宣先生の恩師には要所で気にかけていただき感謝の思いで一杯です。他の大学の事情は知りませんが、教え子が定年する年齢まで見守り続ける大学（教員）は他にあるのでしょうか。社大は本当に素晴らしい大学です。卒業生であることは私の誇りです。

プロフィール 右京 昌久(うきょう あつひさ)

1960年岩手県玉山村生まれ。1984年日本社会事業大学卒業、特別養護老人ホーム秀峰苑生活指導員。1987年社会福祉法人岩手県社会福祉協議会に入職、現在事務局長。一般社団法人全国福祉サービス第三者評価調査者連絡会副理事長。社会福祉法人盛岡いのちの電話業務執行理事。趣味は和太鼓。